

勝田川都市基盤河川改修事業の
事業再評価

一級河川勝田川 都市基盤河川改修事業 事業再評価について

平成21年2月
千葉市 都市河川課

1

事業再評価を行う背景

- 長引く景気低迷
- 公共事業予算の減少
- 公共事業への関心の高まり
- 情報の透明性の確保
- 国民の環境回帰志向

◆時代のニーズに合うか？
◆他の方法はないの？
などの疑問に答える

公共事業を評価する仕組み

2

事業再評価のルール（評価者）

すべての公共事業について

- 1) 河川事業・ダム事業であり
- 2) 河川整備計画策定のための流域委員会がある場合

地域と密接な関係
計画策定段階から議論

評価監視委員会



流域懇談会

3

事業再評価の視点

- ①事業の進捗状況
- ②社会経済情勢等
- ③コスト縮減・代替案の可能性
- ④事業の投資効果

[継続]

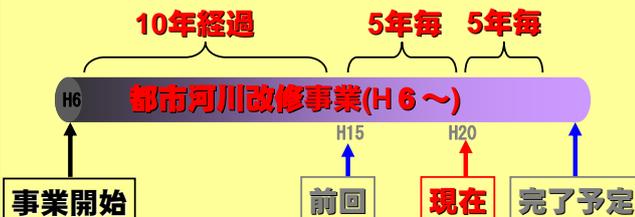
審議

[中止]

流域懇談会の結果に基づき河川管理者が判断

4

事業再評価の時期



- 【対象】**
- ① 事業採択後5年経過して未着工
 - ② 事業採択後10年経過して継続中
 - ③ 再評価実施後5年経過した事業

5

流域の概要



6

対象事業の概要



視点① 事業の進捗状況



視点② 社会経済情勢等



視点② 社会経済情勢等



視点③ コスト縮減・代替案の可能性



視点④ 事業の投資効果

河川整備に係る費用 (Cost) と、得られる便益 (Benefit) の比率で評価。
 $B/C \geq 1.0$ で事業の経済的妥当性を確認する。



便益(投資効果)の対象項目

直接被害	資産被害 抑制効果	一般資産被害	家屋	居住用・事業用建物の被害
			家庭用品	家具・自動車等の浸水被害
			事業所償却資産	事業所固定資産のうち、土地建物を除いた売却資産の浸水被害
			事業所在庫資産	事業所在庫品の浸水被害
			農漁家償却資産	農漁業生産に係わる農漁家の固定資産のうち、土地建物を除いた売却資産の浸水被害
			農漁家在庫資産	農漁家の在庫品の浸水被害
	農産物被害	浸水による農作物の被害		
	公共土木施設等被害	公共土木施設、公益事業施設、農地、農業用施設の浸水		
間接被害	稼働被害 抑制効果	営業停止被害	家計	浸水した世帯の平時の家事労働、余暇活動等が阻害される被害
			事業所	浸水した事業所の生産の停止・停滞(生産高の減少)
			公共・公益サービス	公共・公益サービスの停止・停滞

13

事業の投資効果(1)

10年に1度の規模の洪水で発生する被害額は、約24億円
事業実施による年平均被害軽減期待額(B) 約6.5億円

残事業期間および施設完成後50年間で発生する
総便益 約134.8億円



- ① 軽減される氾濫面積 約44ha
- ② 軽減される浸水家屋戸数 206戸

14

総費用(残事業費+維持管理費)

〈勝田川〉

残事業期間とその後の50年間の総費用

残事業費 18.91億円

維持管理費 1.42億円

総費用(C) 約20.3億円

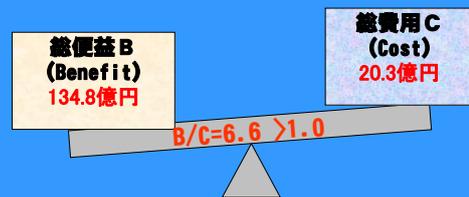
15

事業の投資効果(B/C)

今回の事業の**総便益 B = 134.8億円**

それに要する**総費用 C = 20.3億円**

B/C = 6.6 > 1.0



16

視点① 事業の進捗状況

早期完成を目指す

- ・事業が進捗中
- ・継続的に事業効果が発現

視点② 社会情勢等

事業の必要性あり

- ・開発が進む要因あり
- ・水害解消の必要あり

視点③ コスト縮減・代替案の可能性

現計画案が妥当

- ・今後もコスト縮減に努める

視点④ 事業の投資効果

費用対効果の算定

よって、事業を**継続すること**としたい。

17

再評価実施事業調書

番号		事業名	都市基盤河川改修事業		路線又は箇所名等		一級河川 勝田川	
事業所管課		都市河川課			事業主体		千葉市・佐倉市・八千代市・四街道市	
事業化年度	平成6年	用地着手年度	平成6年	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成13年度 平成35年度	再評価の理由	③	
費用便益比 B/C	6.6	総費用	20.3 億円	総便益	134.8 億円	基準年	平成19年度	併用開始年度 平成25年度

事業概要

(事業目的)

本河川の流域は、千葉市・八千代市・佐倉市・四街道市にまたがっており、流域内における急速な都市化に伴う雨水流出量の増大により、勝田川上流部千葉市稲毛区小深町付近及び四街道市大日付近の浸水被害や河川沿いの八千代市、佐倉市での浸水被害が発生している状況である。また、勝田川では内山橋上流部付近の河川氾濫が起きていることなどから、流域の治水安全度の向上を図るため勝田川の流下能力を増強する改修を行う。

(主な実施内容)

改修延長 3,530m 掘削・築堤工 3,530m 橋梁 7橋 樋管 一式
 用地買収 111,000㎡ 支障物移設(水道、ガス他)

事業の進捗状況

	全体計画(億円)	投資事業(億円)	進捗率(%)
全体	111.95	88.57	79.1
工事	64.86	42.65	65.8
用地	47.09	45.92	97.5

社会経済情勢等

① 流域状況

本河川は、千葉市稲毛区小深町地先に源を發し、八千代市境を流下し、横戸町地先で印旛放水路(花見川)に合流する流域面積約20.24km²、河道改修延長3,530mの利根川水系の一級河川である。流域は、4市にまたがり、上流が標高20~30mの平坦な台地、下流は標高10m程度の平坦な低地に位置している。近年、流域の市街化による雨水流出量の増加が原因と考えられる浸水被害が発生している。

② 主な水害状況

平成 3年10月	台風21号	浸水面積60ha	平成13年10月	集中豪雨	浸水面積60ha
平成 8年 9月	台風17号	浸水面積34ha	平成16年10月	台風22号	浸水面積20ha
平成12年 7月	台風 3号	浸水面積60ha	平成18年 7月	集中豪雨	浸水面積20ha
			平成20年 5月	集中豪雨	浸水面積20ha

③ 投資効果

事業を行なうことにより、面積44ha、206戸の家屋について浸水被害の軽減を図ることができる。また、残事業の費用便益費は6.6となり残事業の投資効果が認められる。

④ その他

(関連事業)

対応方針(案)

継続

